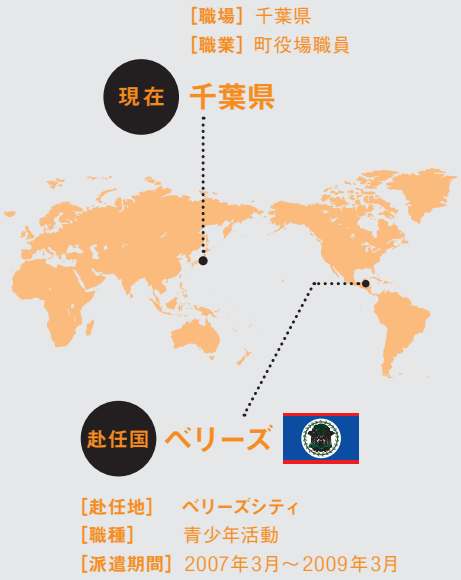

ホストタウンから未来を見つめ、アイデアと行動力で時代を切り開く

村田 浩子さん　横芝光町役場 職員
Hiroko Murata

人や組織と繋がることで新たな世界を知り、そこで学びながら、次の世界を広げていく。
閉塞感が漂うコロナ禍でも、彼女の手がけるホストタウン事業には限界がない。
アイデアと行動力、そして人の輪の広がりは、無限の可能性を秘めている。

ベリーズのアスリートにマスクを届けよう

中米ベリーズのアスリートたちにマスクを届ける『マスクバンクプロジェクト』。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京2020大会）で、同国のホストタウンとなった千葉県の横芝光町が立ち上げた。町民はもちろん、地元の横芝敬愛高等学校では生徒たちが家庭科の課題で作ったマスク等を集めて、寄付をしている。

このプロジェクトの発案者で、町役場のホストタウン事業を担当する村田さんは、青年海外協力隊としてベリーズに派遣された経歴の持ち主。同校で協力隊活動の講演を行い、生徒たちにホストタウン事業への協力を呼び掛けてきた。「全校生徒がベリーズについて学び、マスク寄付にも積極的に動いてくれる。そんな高校が地元にあることが嬉しいです。生徒たちには、東京2020大会に何かしら関わってもらいたいですね」

講演を聞いた生徒の中には、「行動してみよう、挑戦してみよう」という村田さんの言葉に背中を押された人もいた。

コロナ禍で将来への不安を抱える今、村田さんの実体験に基づく講演は多くの生徒たちを勇気づけ、励ましたようだ。

青年海外協力隊での学びは「日本を知らない」自分

村田さんが協力隊に参加したのは30代後半。現在の生活に満足しつつも、新たなチャレンジをしたいという思いがあった。そんな時、開発途上国を訪れ、日本との違いに驚き、人々の生きる力に感動したことがきっかけだった。

ベリーズでは、青少年の育成機関で若者の起業を後押しする活動を行ったが、苦労の連続だったという。若者に道具を貸与し、路上洗車の仕事で独立

横芝敬愛高等学校によるマスクの贈呈式。生徒会が中心となって提供を呼びかけ、ベリーズのアスリートにたくさんのマスクを届けた。

見慣れないスティールパンを間近にしながら、町民たちもいつしかカリブの美しい音色と迫力あるリズムに魅了され、交流会は大盛況となった。

ベリーズの留学生による出前講座は、小中学校でも大人気。グローバル教育は、東京2020大会のレガシーに繋がっていく。

することを提案しても、道具を盗んで仕事に来なくなる若者が続出。技術を学んで独立しようという、気概のある人がいなかったのだ。「色々と試しましたが、上手くいきませんでしたね。赴任して9ヶ月後には総選挙で政権交代。スタッフは総入れ替え、私の存在も『この外国人は何者？』という状況になりました。2年間の活動は、決して成功したとは言えません」

しかし、その経験から学んだことがある。協力隊活動では、常に日本の仕組みや方法を参考にしていたつもりだったが、自分がいかに日本のことを知らないか、特に自治体や行政の仕事を理解していないか、に気づかされた。そして、外国人である自分がベリーズで安全に暮らせたのは周囲の人たちに守られていたから、という感謝の気持ちも芽生えた。

帰国後、日本に住む外国人に安心して生活してもらいたいと、地元の船橋市で災害時外国人支援ボランティアに登録。これをきっかけに、これまで遠い存在だった市役所に足を運ぶようになり、地域や街の仕組みなどを勉強し始めた。

正解がないから面白い ホストタウン業務

ベリーズが縁で横芝光町に採用された村田さんは、文化紹介イベントや留学生による出前講座、学校給食での料理紹介など、ベリーズの魅力を伝える様々な企画を行った。特に力を入れたのがスティールパン※楽団の招へいで、現在も楽団に所属する協力隊時代の仲間と一緒に企画し、12人のベリーズ楽団員にベリーズの中学生2人を混ぜ、中学校との交流事業も実現させた。「生徒たちは、部活動を通して柔道や剣道、着付けなどの日本文化を楽団員たちに紹介してくれました。体験型の交流プログラムは、とても素晴らしかったです」

コロナ禍により様々な活動が制限される日々だが、村田さんは「できることはたくさんあります」と屈託ない。現在、帰国したスティールパン楽団員とのオンラインイベントの計画を立てたり、ガールスカウトの周年事業にベリーズ企画を持ち込むなど、実にアグレッシブだ。また、他の自治体でホストタウン業務に関わる協力隊経験者と連絡をとり合い、連携事業も模索する。

村田 浩子さん プロフィール

千葉県出身。短大卒業後、民間企業に就職。海外旅行がきっかけで開発途上国に興味をもち、青年海外協力隊に参加。青少年活動隊員として、中米ベリーズの青少年育成機関にて起業家育成に従事。帰国後、船橋市の災害時外国人支援ボランティアを経て、三重県尾鷲市の商工会議所にてインターン受入事業などを行う。2019年より千葉県横芝光町職員として、ベリーズとのホストタウン業務を担当。

その他、村田さんは東京2020大会に参加する開発途上国の選手たちを応援しようと、SNSに『世界の応援団』というページを作成。各自治体と協力隊経験者を繋げてきた。「大きなことはできなくても、何かやりたいと思っている仲間がたくさんいます。だからこそネットワークをつくり、東京2020大会が終わった後も外国人技能実習生の支援などに繋げていきたいですね」人好きで、人との輪を広げるのが上手な村田さん。そんな姿を、周囲は親しみを込めて応援する。

ホストタウン業務には正解がなく、アイデア次第で様々な事業を展開することができる。次々と湧きあがるアイデアに村田さんの夢が膨らむ。

村田さんへのエール！

横芝光町 町長
佐藤 晴彦さん

地域活性化に貢献する頼もしい存在

横芝光町がベリーズのホストタウンに決まり、所縁のある人を職員にと公募したところ、村田さんが応募してくれました。ベリーズとの交流を通じて、小さな国でも様々な問題を抱えていることを知り、私たちも勉強になっています。村田さんは、これまでの経験を活かしながら、即戦力としてよくやってくれています。地域のためにキャリアを活かして仕事をする、そんな文化が出来上がっていくといいですね。

※カリブ海最南端の島国トリニダード・トバゴ共和国で発明された、ドラム缶から作られた音階のある打楽器。